

さくらだより

vol. 3

2021年3月19日発行



配管 職長

やまのじ りゅうへい
山野寺 竜平

中途採用でさくら株式会社に入社し、職長として配管業務に携わる山野寺竜平。今日まで、どのような道のりを歩んできたのだろうか。さくらとの出会い、入社1年目の苦い失敗経験など、これまでの経歴を聞いた。

自慢の体力を活かせる仕事を
 目指したが……

子どもの頃から、体力には自信があった。学生時代は野球部とハンドボール部に所属。体育会系ならではの厳しい上下関係の中で、礼儀を叩きこまれた。当時から漠然と胸にあつたのは、「肉体も精神も追い込まれるような、なるべくきつい仕事に就きたい」という思い。過酷な環境に身を置けば、その後どのような職に就いても通用するはずだという考えがあった。そこで視野に入れたのが自衛隊

だ。集団生活を送りながら訓練で自分自身を追い込み、鍛えてみたいと思った。しかし、採用試験の結果は不合格。入隊は叶わなかった。

社長の人柄に惹かれて

高校卒業後に飛び込んだのは、足場職人の世界だった。その後、自動車業界での経験を経て、配管の道へと進んだ。配管工として一歩ずつ知識と経験を積み、さらなるスキルアップを考えた際に高校時代の同級生から紹介されたのが、さくらだった。

社長の高橋には、いい意味で「社長らしさ」を感じていないという山野寺。テレビや映画、あるいは漫画の中の社長とはかけ離れたフレンドリーな人柄で、それまでに勤めてきたどの会社の社長とも異なる。気さくに声をかけてくれる高橋の人柄に触れ、「この人

の経営する会社を見てみたい」と強く思った。こうした縁から、さくらの一員として新たな一歩を踏み出したのである。

会社として手がける現場は日本全国。山野寺も入社当初から各地を飛び回り、現場に立った。いろいろな都道府県を訪れるのが楽しく、「次に任せてもらえる現場はどこだろう」と、日々、気持ちを弾ませていたのを覚えている。不慣れな部分も多かったが、疑問を直ちに質問すれば、周囲の先輩社員が丁寧に仕事を教えてくれた。そうした心強い環境の中で着実に知識を身につけ、実力を伸ばしていったのだ。

「辞める」を
 頼みの綱に働いた
 スランプの日々

日々前向きに現場に臨んでいたが、すべてが順風満帆に進んだわけでは決していない。入社して1年目の仕事にもだいに慣れてきた

頃、常務と担当した北海道の現場では、苦い思い出がある。

「ボルトの締め込みが甘い！」

「指示した寸法と違う！」

原因は分からないが、何をやってもミスばかり。普段なら問題なくできるはずの仕事ができず、絶えず叱責される日が続いた。「なんでもこんな簡単なこともできないんだ！」ときつい言葉を投げかけられては落ち込み、またミスを……。いつの間にか、山野寺は負の無限ループに陥っていた。

「この現場が終わったら、すぐに会社を辞めよう」。

そんな思いが、日に日に大きくなっていく。表面上はいつも通りに作業をしながらも、頭の中は「辞める」の三文字でいっぱいだった。

常務の言葉に救われて

辞めることばかり考えていた山野寺を、引きとめてくれた人がいる。それは、共に現場に立っていた常務だ。

「いくら失敗してもいい、責任は全部取ってやる。だから次の現場でもう少しがんばってみろ」。

その言葉を聞いた瞬間、目の前にかかっていた霧が晴れるような思いがした。もう少しだけ、がんばれるかもしれない。

「あの時、常務が声をかけてくれたければ、自分は今、ここにはいないでしょう。自分の異変に気づいて手を差し伸べてくれた常務には、感謝しかありません」。

当時の思いは今もありありと蘇る。失敗の数はなかなか減らなかつたが、叱られながらも、なんとか現場を完遂させた。その後、少しずつではあるが確実にミスを減らし、スランプからは脱却。職長を任せられるようになり、新たな挑戦が始まった。

(後編に続く)

企業情報

設立年：2012年4月
 年商：608,257,000円
 ※2020年3月決算時点





カンパニーヒストリー

巻頭インタビューで語られた壮絶な初現場。今回は工事主任を務める寺澤さんと、常務の寺澤さんに、そのときの思い出から心情まで、詳しくお聞きしました。

- ① 当時で一番思い出に残っていること
- ② 厳しい現場、こう乗り越えました
- ③ 初現場で学んだこと
- ④ このときの経験で会社に変化をもたらした事
- ⑤ 当時の自分に伝えたい言葉



配管 工事主任
てらさわ あきひろ
寺澤 彰洋さん

①最後に加工したものをレッカーで吊り上げて現場に置いたとき、ピタッと合ったあの瞬間は思い出に残っています。一発勝負で、もし失敗したら毎日夜通しで行った作業が台無しなので、あの瞬間は忘れられません。

②会社を設立したばかりの初期メンバーが集った現場だったので、今後会社を大きくするための基盤となる作業という意識がありました。当時は若い人が多く、周りの方々からは心配されていましたが、最終的には「若さゆえの仕事ぶりがいいね」と好評をいただき、嬉しかったのを覚えています。

③初めて経験することばかりだったので、がむしゃらに仕事に取り組み、すべてのことが自分の成長に繋がりました。この辛い経験があったからこそ、今どんな仕事も「絶対に大丈夫」という強い気持ちで、自信を持って仕事に臨むことができます。「あの現場ができたんだから今回もできるでしょ」は皆の口癖です(笑)

④多くの失敗があったからこそ、その経験を活かし、皆仕事の流れをつかめるようになりました。仕事の効率化や技術力の向上によって、最近は残業も減り、日曜日もしっかり休めています。

⑤「与えられたらやるしかないという性格のまま、ビビらず様々なことに挑戦すれば、できないことはない」と伝えたいです。また「もっと成長するために、もう少し積極的に行動するべき」とも言いたいです。



常務
てらさわ としひろ
寺澤 寿洋さん

①いくつかの業者さんに断られてさくらに回ってきた仕事だったということもあり、とても難しい案件でした。イレギュラーな配管も発生、大変という言葉はこの案件のためにあるのではないかとさえ思いました。

②皆若かったので、時間ごとに人を変えて取り組みました。3か月の間に戦線離脱者が続出。期日が決まっていることもあり、「やらないと終わらない」の一心で手を動かしてなんとか完成。この現場以上に厳しい現場には出会っていません。

③精神的なことも技術も多くのことを学びました。どれだけ膨大で、不可能に見える案件もやれば終わるのだと分かったことが一番の収穫。他にも社員の絆が深まったり、配管の組み方や寸法のとり方を学んだりすることができました。

⑤頑張っって最後まで続けてよかった！

オススメの本

社長イチオシの本を紹介するこの企画。今回は歴史的なあの事件「本能寺の変」の謎が描かれている漫画『信長を殺した男』をご紹介します。歴史好きなあなたも、そうではないあなたも、是非読んでみてください！



『信長を殺した男』

出版社：秋田書店
著者：藤堂裕 / 明智憲三郎

あらすじ：現代でもなお多くの謎が遺される、日本史上最大のミステリー「本能寺の変」。本作品は、明智光秀の子孫である明智憲三郎さんの著書『本能寺の変431年目の真実』を元にして、漫画家の藤堂裕さんが描いた傑作です。全8巻、ハッと驚くような事実が盛りだくさん。織田信長はなぜ殺されたのか？大事件のストーリーを仕立て上げた人間は誰なのか？そして明智光秀という男の本当の姿とは……？



社長のオススメポイント

明智光秀を主人公にした漫画です！
習う機会が少なく私達があまり知らないようなことが沢山描かれており、また歴史の偉人の考えも書かれているので、楽しんで読むことができます！

お客様とのエピソード

日々の仕事で背中を押されたり、ほっと癒されたりするお客様とのひと時。誰も思い出に残るお話があるのではないのでしょうか？そんな素敵なエピソードを聞いてみました。



常務
てらさわ としひろ
寺澤 寿洋さん

1 印象に残っているお客様からの言葉

「配管きれいだね」と言っていただくと、頑張っってよかったなと強く感じます。特定のお客様で印象に残っている、ということはないのですが、自分が普段から意識していることですので、お客様にもそう言っていただくと達成感が生まれます。

3 今後の目標

自分個人というよりも、さくら株式会社がどんどん大きくなっていくことが目標です。そのために自分も努力し続けたいと思っています。後輩や若手の力もどんどん伸ばしていけるよう、教育にも力を入れていきたいものです。

2 お仕事をしていく上で意識していること

常に、自己満足になっていないかという部分は意識しています。やはり自分の目だけで見ているだけでは、お客様に満足していただけません。お客様の目線に立って、満足していただける仕上がりになっているかを常に考えながら仕事をするを大切にしています。様々な業者さんと共にお仕事をしていく中で学んだことで、後輩にも必ず伝えることです。